

# 仕事人秘録

静銀経営コンサルティングでM&A（合併・買収）の仕事始めて半年後、青天の霹靂（へきれき）とも言える辞令を受け取る。

2001年1月25日だと記憶しています。静岡銀行本店の社員食堂で昼食を食べていると、同僚が「（静銀経営コンサルティングの）社長が呼んでます」と告げに来ました。昼食をかき込んで執務室に行くと、社長はどことなく当惑した表情でした。

「今すぐ（静銀の）人事に行ってください。私もそれ以上のごとは聞いてない。よくわからないんだ」。要領を得ないまま向かった先はコンサルティング会社行きを陳情した経営管理部副部長の中西勝則さんです。

## 行列のできる経営相談所 ⑫

富士市産業支援センター長  
小出 宗昭氏



SOHO静岡の開所式（2001年2月、中央は静岡県知事＝当時＝の石川嘉延氏、静岡県提供）

### 突然の出向 困惑と緊張

「会長だよ。会長が『小出を出そう』と言ってるんだよ」。会長とは神谷聡一郎さんのことです。

会長の名前が出た事で人事の重大さを知る。「やばい」。心の中でそう思いました。行政の機関に出向、しかも開設直前の人事。指名したのは会長。「これは特命だ。必ず結果を出せ」というのに等しかったのです。

前評判が芳しくない新天地に私が向かうことを、同僚の多くが左遷と受け止めていましたね。私も少し落胆した様子だったかもしれませんが、送別会を開いてくれませんが、水杯を交わすよつな雰囲気だったのを覚えています。41歳でした。慌ただしい中で挨拶回りです。中西さんに付き添われて静岡県庁、静岡商工会議所などで「よろしくお願います」と頭を下げました。でもまだ、自分の中では心の整理がつかない日々が続きます。

「何か急な用事ですか」と聞くと、「小出さま、悪いんだけど2月1日からここに行ってくれないか」と言います。示されたのが「SOHO静岡」でした。静岡県が開設するベンチャー支援施設で2月から業務を始める予定でした。

普通、出向の場合は2、3カ月前には内示がありま

す。それが数日後に「行ってくれ」と言われたので、さから頭が真っ白になりました。出向期間は2年です。「だれがこんな人事を決めたのですか」と食ってかかた。施設に入居するベンチャーが少なく、開店休業になりそうな雲行きだったのです。しかし、断ることなどできません。数日で引き継ぎをしました。

実のところSOHO静岡はメディアなどからあまり好意的に見られていませんでした。「行政が本当にベンチャー企業を支援できるのか」といった声もありました。施設に入居するベンチャーが少なく、開店休業になりそうな雲行きだったのです。しかし、断ることなどできません。数日で引き継ぎをしました。

行政サイドからは「好きになようにして頂いて結構です」とか「にぎやかな場所にしてください」と言われ、期待されているのがよくわかりました。SOHO静岡は2月1日にスタートしました。私の懸念は現実になり、目の前が真っ暗になりました。